

令和5年度3回 釜石市子ども・子育て会議開催結果（概要）

1. 日 時 令和6年2月29日（木）10：00～11：55
2. 開催場所 釜石市上中島児童館
3. 出席者等 <出席委員13人>
佐々木江利委員、平松寿倅委員、木村仁寿委員、松岡公浩委員、藤原けいと委員、
八幡雅子委員、赤崎成子委員、佐々木晴美委員、菊池利行委員、藤原伸哉委員、
福成菜穂子委員、黍原豊委員
<市側出席者>
釜石市長 小野 共
釜石市保健福祉部長 鈴木 伸二
釜石市保健福祉部子ども課長 村山 明子
子ども課 主幹兼子ども福祉係長 樋岡 悦子
課長補佐兼次世代育成係長 菊池 喜子
次世代育成係 主事 佐藤 愛
釜石市保健福祉部健康推進課 課長補佐兼保健予防係長 川原 瑞穂
釜石市教育委員会学校教育課 主任指導主事 吉田 亜矢子
4. 傍聴者 2名
5. 結 果
 - (1) 委嘱状公布
 - (2) 開 会
 - (3) 市長挨拶（要旨）

委嘱状を交付させていただきましたが、任期までよろしくお願ひ致します。

本日の会議を有意義なものにしたいと思っております。本日はよろしくお願ひいたします。
 - (4) 委員紹介
 - (5) 事務局紹介
 - (6) 議 事
 - ①委員長、副委員長の選任
特に意見がなかったことから、事務局から委員長及び副委員長を推薦。委員長に福成菜穂子委員、副委員長に藤原伸哉委員を推薦し、承認された。その後、2人から挨拶をいただいた。
 - ②特定教育・保育施設の利用定員の変更について
議事について、事前に配布した資料に基づき、事務局から説明し承認された。
<主な質問・意見>
●働く保育士等の数をしっかり確保した上で、子どもたちの見る数を減らしてほしい。
 - ③小規模保育事業所の設置者の変更について
議事について、事前に配布した資料に基づき、事務局から説明し承認された。
<主な質問・意見>
なし

④釜石市こども家庭センターについて

議事について、事前に配布した資料に基づき、事務局から説明を行った。

<主な質問・意見>

- 釜石の場合は、窓口が色々なところがあるので、一本化することによって、利用する側もわかりやすくなって良いと思う。また、職員の負担も軽減されるのではないかと感じる。
- 利用する方にとって、窓口が広がるのは良いと思うが、どうしてもそこまで行けない方も必ずいるので、そこまで手を差し伸べるようなセンターになればよい。
- 発達などの不安があったときに、スムーズに相談窓口につながるようになればいいなと思う。
- 園だけで問題を解決できず、栄養士や保健師に実際来ていただき助言していただいた。また、保護者だけではなく、園側にもサポートをしていただいた経過ある。今は国際化で外国の方にはなかなか難しいと思うが、広報等で周知してもらいたい。
- こども家庭センター設置の前提として、0歳から18歳までが対象というのは、教育委員会と連携する部分が出てくると思う。こども家庭センターの人員も少ないと思うが、教育・学習面以外の生活習慣や精神面をケアする機能を強化してほしい。
- 「児童育成支援拠点事業」について、こども食堂という例があったが、こども食堂は年何回かイベントのような形で実施すると思うが、必要な時にその子に手が差し伸べられることが大切だと思うので、そういう事業の形になったら良いのではと思った。
- 他市町村からみると、釜石市の保健師は人数的に充実している印象があるので、保健師の訪問回数を増やすなど、重曹的支援から共有する部分を他分野と連動することがすごく重要だと思う。こども家庭庁の分野では、18歳以降の相談を受けないことから、出来るだけ釜石オリジナルの機能で活用できるものをつくってもらいたい。
- 保育所の待機児童が多かった時代から、随分と保育所のニーズが減少してきているのであれば、既存の保育所の空き部屋や保育士を上手く活用しながら、学童と連動できるようになどしてほしい。
- 今学校現場では、相談したいことがある子どもがたくさんいるので、こども家庭センターで何とか繋いでほしい。
- 例えば、ハンディの子ども放課後の居場所など、しっかりとケアできるようなシステムを作るためには人的配置が必要。今回のこども家庭センターの配置基準を見た時に、どう充実させていくのかが気になる。
→こども家庭センター職員の配置基準は、現在の子ども課の職員が兼務する形で考えているので、人員が増えるような感じではない。

⑤第2期釜石市子ども・子育て支援事業計画 重点プロジェクトの見直しの検討について

議事について、事前に配布した資料に基づき、3つあるプロジェクトごとに事務局から説明し承認された。

<主な質問・意見>

ア. 情報発信プロジェクトについて

- 周知の方法はいつも課題だと思う。LINEに釜石市から情報が入ってくるが、特に子ども課からの情報はわかりやすくお母さんたちの子育てに絶対役立っていると思う。

イ. 遊び場開拓プロジェクト

- 遊び場は、子ども自身が直接的に関わっている場面なので、子どもの声をもっと反映されたり、捨ったりする指標が入っていたら良かったなと思いました。例えば、公園で遊んでいる子どもにインタビューするとか。市の財源も限られていることから、どの公園を充実させるとか、縮小させるとか実態把握も兼ねて。
- 「重層的支援体制整備事業」について、上手く他の機関と連携しながら情報共有できると、児童相談所が関与する予防につながると思う。
- 例えば、この会議に来るのは難しいが、子どもたちと大人が一緒になって考える場もあれば良いなと思う。
- 公園や学校にある遊具が古く、安全性の面でかなり撤去されており、遊びに制限がかけられている状態である。今後の釜石市が公園のあり方をどのように地域活動や学校教育と密着させていくのかお聞きしたい。
→今後、児童遊園や都市公園については、維持費が結構かかっていることから、あり方を検討してかなければならない課題として捉えている。今後、地域でどういった形で使っていきたいのか議論すべき時期に差し掛かっていると思うので、全庁的に協議させていただきたいと思う。

ウ. 子どもと家庭を守るプロジェクト

- 今年度も、虐待件数は同じくらいなのか。
→まだ途中だが、虐待件数は昨年度の倍になっている。窓口が広く周知されてきたことも件数増加の要因の一つではないかと考える。
- この前、小・中学校の規模適正化の話があったが、その中で議論されている内容は、教育の質をどう高めるかがメインで、子どもたちの福祉的な議論がされていなかった。様々な大人が斜めから関わることで、地域の中でその子の居場所が出来てくることもあるので、福祉行政と教育行政が上手く連携しながら話を進めてほしい。
- 釜石市にはキッチン付きの室内施設がたくさんあるので、そういう場所でこども食堂を開催した補助を出すなど、施設の活用をしてほしい。また、高齢者が外に出て料理を作る機会があれば、子どもたちもおなかがいっぱいになりながら、外で遊べるのも良いのではないかと思った。

⑥その他

事務局から、小佐野地区にある小規模保育事業所のベビーホーム・虹について、入所児童数の減少により令和6年3月末をもって廃止すること、職員や園児は、同じく特定非営利活動法人 母と子の虹の架け橋が運営する虹の家に転園を予定していることを説明した。

(7) その他

- ・次回会議日程についての説明（6月頃を予定）

(8) 閉 会（市長総括）

今の釜石の財政状況は本当に厳しいです。その中で、様々な子育て支援、お母さんに対する支援の中でどれにお金をつけてどれにお金を削っていくのかということが、ここ3、4年の釜石にとって本当に正念場になってくるだろうと思います。そういう意味で、この会議での意見は本当に重要なものになると思います。今後とも、子どもを守っていく、女性の方を守っていくことは、しっかりと考えていきたいと思っております。今日は本当に貴重な意見をいただきました。ありがとうございました。